

## 風のよう

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。

マタイ28：20

## 【説教要旨】

イエスさまの生涯をそれぞれの生活の場でどう捉えたかと言うことを書き記したのが福音書です。イエス像、イエスさまの教えをどのようにマタイが捉えたかということを書いたのがマタイによる福音書です。それは、同時に神のお姿はどのような神だったかということです。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。1:23」

「インマヌエルー神、共にいます」。では、神、共にいますということはどういうことでしょうか。

皆さんもご存じの20世紀の聖人・マザー・テレサの人生は、それは誰もが認める神、共にいますという人生でした。彼女が霊的指導者に宛てた手紙が本になり、その本の中で、神の声が聞こえない「闇の体験」が十年間あったというのである。テレサは神の召命を受けます。「あんたは一番ふさわしくない者であることを承知している。弱く、罪深い者だから。だが、ちょうどその訳で、私はあんたを使おうと思う。私の栄光のために。いやかね？・・・お前さんは“どうぞ私をお望みのままにお使ください”と言ってきた。今がその時だ・・・恐れるな。私はいつもあなたとともにいる。これから苦しむだろう。今も苦しんでいるが・・・だが、もしあなたが私のいとしい伴侶、十字架のイエスの伴侶たらんとするなら、

心の痛を忍ばなければならぬ。・・・さあ、人々の靈魂を私のもとに連れて来るのだ」

召命の声は、「恐れるな。私はいつもあなたとともにいる。」という弟子たちが聞いた声と同じでした。それゆえに弟子が一步を踏み出し世界へ出ていきイエスさまの愛を伝えるように向かったように彼女も、「神の愛の宣教者会」を創立し、皆さんが知っているように愛の業をなし、「さあ、人々の靈魂を私のもとに連れて来る」ことが出来ました。しかし、「これから苦しむだろう。今も苦しんでいるが。・・・だが、もしあなたが私のいとしい伴侶、十字架のイエスの伴侶たらんとするなら、心の痛を忍ばなければならぬ。」ということが起きなければなりません。4年後、まさに「心の痛を忍ばなければならぬ。」というテレサに神が答えてくれない時代を十年間過ごすのです。イエスは立ち上がって大声で言われた。「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“靈”について言われたのである。

渴いている時代があった。「愛されないこと」、「必要とされないこと」、「誰からも世話されないこと」、闇の苦しみを生きなければならなかった。

私たちの人生を振り返って見るとき、私たちの中でも起きることではないでしょうか。神はどこにおられるのかという闇が私たちを襲う。しかし、この闇の中にも神がともにおられるということです。テレサにとって闇は、十字架の主の苦しみを知り、担うことであり、コンパッション、人々の苦しみをさらに共に担い、さらに自分のものとなっていくことになるのです。彼女が強く、たくましかったのは、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」というイエスさまの言葉です。最初に聞いた「今がその時だ。・・・恐れるな。私はいつもあなたとともにいる。」という言葉の信頼であったのです。それは弟子あるものが必ず聞くことの出来る言葉です。

「神がともにおられる」ということは、私たちの人生を貫いています。しかし、私たちは、問題のないばら色のことが続く人生というのを望みます。しかし、問題のないばら色の人生であるのでしょうか。

「愛されないこと」、「必要とされないこと」、「誰からも世話されないこと」、闇の苦しみの時もあるのです。しかし、これは、神の目、神の前では、私たちにとって、意味ある時であるのです。

恐れに震え、手も足も出ずに、弟子たちが恐怖のあまり、慄き、鍵をして闇に覆われたときを私たちは知っています。

しかし、復活された主は、これでもかこれでもかと弟子の前に現れ、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」ということを示されました。最後に「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」とはっきりと言葉で弟子たちに言われました。主・イエス・キリストのみ言葉を聞き、体験した弟子が、恐れることなく強く、たくましく、世界へイエスさまの愛を伝えたのも事実です。私たちはこの事実の前に聴き従うことこそ人知を超える神の奇跡が私たちに起こってくるのです。

31 神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。

この世界こそが昔も今も変わらず起きるのです。主・イエス・キリストのみ言葉「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」という世界です。

激変していく時代にあって、厳しく、苦しい世界があります。しかし、見よ、それは極めて良かったという世界です。

マザ・テレサが、神の声が聞こえず苦しんだ十年に対して、「イエスさまに向かっても、満面の笑みをもって苦痛のことを告げないでおこなう」という強さ、したたかさ、たくましさをもちえたように私もテレサのように与えられます。主と共に安心して日々をいきましょう。

## 牧師室の小窓からのぞいてみると



### 「なんのための効率」

天野祐吉氏が「人間に自由をもたらすはずの効率化は、一歩間違っていると人間に不幸をもたらす。なんのための効率化、いまは立ち止まって考えてみる時じゃないかな。」と論評している。

近代は効率ということを求めて走ってきた。しかし、本当に自由になり、幸福を私たちにもたらしたかというところでもない。現代は大きな壁の中にいる。壁があるときはエネルギーの転換の時である。新しいエネルギーを探しだすには、天野氏のいうように今は立ち止まって考えてみると意外と行き詰った社会にあって、道があるのかもしれない。

教会も効率化を求めて私たちは何かを失っていつているように思える。もっと見えていたものが見えなくなり、輝いていたものが輝かなくなり、沈滞ムードがある。私たちも立ち止まり考えてみるときかもしれない。

## 新米園長・瞑想？迷走記 一見守りー



大森ルーテル幼稚園時代は、子どもらと一緒にいろいろな体験をし、多くの学び、その実をいただいた。

子どもたちが庭で元気に遊んでいた。

年中のクラスの男の子が、一人の子に対して数人でけりあいこをやっている。喧嘩、いじめかなと思い「どっき」とするが、どうも遊んでいるようだ。しかし、激しすぎるので、様子を見ていた。一人が泣き出す。しかし、遊びは止まらない。次の子どもがターゲットにされる。案の定、けられて泣き出す。さて出番かなと思っていると担任が出てきて一言いったようである。

その後、彼らの遊びが止まったわけではないが、けりあいにも、どこまでけると泣くか分かったようで、次は泣いていたこどもも含めて新しい遊びを始めた。「路地の消失で消えた子どもたちのルール」と言われている。場所、友達が揃えば子どもたちは、自然とルールを作るものだ。きっと、この遊びも役にたつだろう。

## 日毎の糧

聖書：人間は何ものなのでしょう。

詩編8:5



### ルターの言葉から



このようにキリストの国は、貧しい漁師たちのことばと、十字架につけられたナザレのイエスと呼ばれる神の、侮辱され軽蔑さです。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

### 人とは

「この詩は人とはいかなるものか、その栄光と尊貴（威光）とは何によるかを歌った、短くはあるが力強い詩である。

その前半（2－4節ことに3節）は神の天地創造を歌っているが、それと人間とはいかなる関係にあるか、それが後半（5節－10節）に歌われている。そして冒頭（2節）と末尾（10節）には折り返しとして同じ事が語られている。・・・・・・・・この詩の主題は人間とは何かということにある。」①

人とは何か、人が神のように振る舞う今の時代だからこそ人は何であるかと言うことを問うことは信仰者の道ではないだろうか。月本照男氏は次のようにこの詩篇を解釈している。

「神の創造の業なる天と地に比べれば、人間はいとも小さく、無力な存在である。だが、その人間に地上の支配とその責任が神から委ねられたのである。草の花のようにはかない人間の生が神による創造の秩序にしっかりと位置付けられている。本詩の詠い手はそのことを厳粛な想いで受け留め、その想いをここに表白した。そして、夜の礼拝で夜空を仰ぎつつ本詩を詠い継いだ人々もまた、天上の月と星の輝きに人間に与えられた『栄光と栄誉』を感じ取ったのである。」②

引用文献：①詩篇

浅野順一 岩波新書

②詩編の思想と信仰Ⅰ 月本照男 新教出版

祈り：神よ。小さき罪深い人があなたに選ばれたことを厳粛に受け止めていけますように。アーメン。

## 甘木通信

愛する妻と共に人生を見つめよ 空である人生のすべての日々を。それは、太陽の下、空であるすべての日々に 神があなたに与えたものである。それは、太陽の下でなされる労苦によって あなたが人生で受ける分である。 コレト9：9



東京に出張であった。福岡、東京と妻と離れているが、いっこうに離れていると感じなく、いつものように側に妻がいるような感じである。何か、つつこまれそうだ。

結婚し、「愛する妻と共に人生を見つめよ」という時、一場面、一場面が実感されてくる。同時に自分自身を問われる。今は、妻と言う人がいて、私がいる。どんなに離れていても。「すべてに時がある」、愛する妻と共に人生を見つめている時だと思っている。

しかし、よくよく考えてみると愛する妻を通して自分を見直す、自分を変えていく努力の楽しい時間は続かない。どちらがいつか天に帰る日も近いだろうし、その前にどちらから介護に入るかもしれない。二人で共に生き、どんな楽しい時間であっても、「空である人生のすべての日々を。それは、太陽の下、空である。すべての日々に神があなたに与えたものである。」ということを実感してくる。「空」であるということ。だから、今の愛する妻と共に人生を見つめている時間は有意義な大切な時であるということをも自分自身に刻まなければならないと思うようになった老いを過ごしている。

**(甘木日記)土)** いつものように午前中は終活の片付け。暑いから夕刻から甘木教会へ。庭の草取り。手入れ。泊。蚊が飛び出し始めた。Iさんと挨拶。明日、東京だと。**日)** 礼拝に新来者も来られて楽しい時間を過ごす。礼拝後、役員会。**月)** 5時15分のバスで福岡空港、東京四谷で保育園の聖壇蠟燭購入。羽村幼稚園、管理者会議。**火)** 介護されている方と昼食、その後、入院中のTさん、お母さんを半年前に送ったSさんを訪問。久留米に11時20分到着。**水)** 保護者、園児、聖霊降臨日礼拝を守る。食事会をし、保護者と交流。職員会議。**木)** 松崎保育園、聖書の学び、礼拝、理事会、夕刻、甘木教会で草取り。夜は蛍狩。**金)** 真夏のような暑さ。日善幼稚園の花の衣替え。今週もよく動いた。感謝。生かされて。

## おまじ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土) 午前中は、終活、いつものように家の片づけをした。散歩し甘木に出かけようとしたがあまりの暑さに日が落ちて行くことにした。出来るだけ物を減らそうとするのだが思い出がついていてなかなかうまく運ばない。夕刻、甘木教会へ。日) 新来者も来



られ、賑やかなお茶の会となった。憩いと癒しの教会となりますように。役員会、課題は山積。これも楽しい。月) 始発のバスで福岡空港へ。このバスはいつも満員となる。東京に着き、まずは頼まれていた蠟燭を購入しピエタを訪問。修道会も時代の波か?福岡に続き、昨年、長崎も撤退したという。時代が必要とされない時もあるが逆もある。これを見抜く力が欲しい。神の時。午後から羽村幼稚園の管理者会議。自園給食が用意されていて美味しくいただく。いつもの友人宅に泊まらせていただきNetflixからソウルメイトを見る。こういう愛を忘れてきたように感じた。火)

老々介護されているAさんと会う。あるがまま日々起きることを力まず受け入れていくという。これは老いの力しかできない。入院されているTさんを訪問。彼と話していると逆に楽しくなり、こちらが力をいただく。最後は落語話で落ちる。本当に元気になってほしい。お母さんを亡くした方の家を訪問。もう6カ月になる。時間が余ったので空港に行く前に孫に会いに行く。途中、紫陽花の花が咲き誇る。忘れずに教会に鳩サブレを購入。任務完了。水) 聖霊降臨日の子どもと保護者との礼拝。その給食の弁当を一緒に食べる。保護者との交流会。保護者同士も交流が出来て楽しい時間を過ごすことが出来たと思う。人が人共に生きることがどんなに楽しいかという時、場を作っていきたい。職員会議、事務会議、園だよりをタガログ語、英語と。帰宅は20時を越す。一杯、ひっかけて帰りたいが、明日もあるので大人しく帰宅。流石に疲れて早く布団の中。木) 3時ごろに目が覚めて、昨日の事務会議の議事録を作り出す。送信したつもりが送信されていないことに気づかされて、送信する。こんなことが多くなった。松崎保育園での職員への聖書の学び、こども礼拝と続く。午後から理事会があるために園の給食をいただく。夕刻、甘木教会、日が落ちるまで、草取り。これが楽しい。20時、蛍狩にHさんが誘ってくだ



さる。もう、蛍シーズンかと忘れていた。金) 日善幼稚園の事務作業。園外保育へ行っている間に夏の花を植えようすると桔梗が咲き始めた。真夏日。これいかに。産休の先生を送るために餅を購入?力餅。